



洗足学園音楽大学
大学院コンサートシリーズ

大学院ピアノコンサート研究演奏会



PIANO
樋口 歌織 大学院1年



PIANO
田口 美優 大学院1年



PIANO
田中 広輝 大学院2年



PIANO
船越のどか 大学院1年



ORGAN
赤塚 博美 本学教授



CONDUCTOR
森口 真司 大分県立芸術文化短期大学音楽科教授

PIANO CONCERTO

WA.モーツアルト／
ピアノ協奏曲第20番 二短調 KV.466

F.リスト／
ピアノ協奏曲第2番 イ長調 S.125/R.456 H6

S.ラフマニノフ／
ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 作品18 第1楽章

L.アルベニス／ピアノ協奏曲 イ短調 作品78

2022.3/7 [月]
開演 | 18:00 開場 | 17:30
洗足学園 前田ホール

〔第一夜〕

△ 新型コロナウィルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

== PROGRAM ==

指揮 森口 真司 (大分県立芸術文化短期大学音楽科教授)

電子オルガン 赤塚 博美

DU DANYANG (大学院2年) GUAN QI (大学院1年) 向田 真未 (学部2年)

WEI JIACHEN (大学院1年) 内海 菜々美 (学部3年) 永田 凜太朗 (学部1年)

稻葉 紗音 (学部2年) 堀田 真菜 (学部3年)

打楽器

大西 悠斗 (大学院1年) 越中 亮太 (大学院1年) 青柳 はる夏 (大学院1年)

樋口 歌織 (大学院1年)

W.A.モーツアルト／ピアノ協奏曲 第20番 ニ短調 KV.466

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-1791) // Konzert für Klavier und Orchester Nr.20 d-moll KV.466

I . Allegro

II . Romance

III . Allegro assai

田口 美優 (大学院1年)

F.リスト／ピアノ協奏曲第2番 イ長調 S.125/R.456 H6

Franz Liszt (1811-1886) // Konzert für klavier und orchester Nr.2 A-Dur S.125/R.456 H6

I . Adagio sostenuto assai

II . Allegro asitato assai

III . Allegro moderato

IV . Allegro deciso

V . Marziale, un poco meno Allegro

VI . Allegro animato

～ 休憩 ～

田中 広輝 (大学院2年)

S.ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 作品18 第1楽章

Sergei Vasil'evich Rachmaninov (1873-1943) // Concerto for piano and orchestra No.2 c-moll Op.18 1 mov.

I . Moderato

船越 のどか (大学院1年)

I.アルベニス／ピアノ協奏曲 イ短調 作品78

Isaac Albeniz(1860-1909) // Concerto pour piano et orchestre a-moll Op.78

I . Allegro ma non troppo

II . Rêverie e Scherzo

III . Allegro

■Program Note

■W.A.モーツアルト／ピアノ協奏曲 第20番 ニ短調 KV.466

古典派音楽の代表ともいえるモーツアルトは、協奏曲に限らず、交響曲やオペラ、ピアノソナタなど様々な分野にわたり名作を残した作曲家である。

この曲は、1785年モーツアルトが29歳のときの作品。

モーツアルトのなかでは極めて珍しい短調で書かれた作品で、短調のピアノ協奏曲はこの第20番(ニ短調)と第24番(ハ短調)のみである。ピアノがソロで即興演奏を行うカデンツアでは、L.v.ベートーヴェン作のカデンツアを使用する。

第1楽章 Allegro

冒頭からの静かで陰鬱なシンコペーションが特徴的。重々しいニ短調の響きのなかで、ピアノの孤高で悲しみを帶びた独奏と、激情溢れたオーケストラの対比がみえる。

第2楽章 Romance

ゆったりとして甘美なピアノのメロディが非常に美しく、莊厳な印象を感じさせる。中間部では一変して激しい曲調に変わり、また嵐がおさまったかのような天国的な再現部に戻る。

第3楽章 Allegro Assai

ピアノとオーケストラの掛け合いは熱を帯び、疾走感に溢れた3楽章にはいる。最後は二長調に転調し、華やかに締めくくられる。この煌びやかなコーダとこれまでのコントラストが素晴らしい。

樋口 歌織（大学院1年）

■F.リスト／ピアノ協奏曲第2番 イ長調 S.125/R.456 H6

1839年に作曲された。単一楽章の作品だが、全体は6つの部分で構成され、夢のように美しい部分と、激しく勇壮な部分が交互に現れる。

ソナタ形式で作られているが、ピアノも管弦楽が一体になったいわば交響詩ともいえる楽曲であり、詩的な味わいや内面的な抒情性が極めて豊かな作品になっている。冒頭では幻想的な基本主題が提示され、優美で表情豊かな、ロマンティックな世界が広がっていく。そして圧倒的なクライマックスに到達して結末を迎える。

田口 美優（大学院1年）

■S.ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 作品18 第1楽章

この楽曲は1900～1901年、ラフマニノフが当時28歳の時に書かれ、作曲者自身がソリストを務め初演された。指揮はアレクサンドル・ジロティ、オーケストラはモスクワ・フィルハーモニー管弦楽団により演奏され、大成功を収めた。「ピアノ協奏曲第2番」はまさにラフマニノフの出世作であり、この曲で彼は名声を得る。ラフマニノフにとって記録的大失敗をした交響曲第1番の初演から数年後に、ロンドン・フィルハーモニック協会により「ピアノ協奏曲第2番」の作曲依頼を受けた。

しかし、この曲を書く際にも精神的に苦難の連続であった。

「ピアノ協奏曲第2番」は催眠療法によりラフマニノフを苦悩から救ってくれた、ニコライ・ダーリ博士に献呈された。

冒頭は、ロシア正教の鐘をイメージしたピアノの和音から始まり、ロシア的で重厚な響きを持つ第1主題をオーケストラが演奏する。

一度音楽は静けさを取り戻しヴィオラが奏でると、それに続いてピアノによる第2主題が登場する。

第2主題は第1主題と対照的に、甘くうつとりするようなメロディーとなっており、この後に奏でられるピアノの急速な装飾音型は、ロシア正教の小さな鐘を表現している。そしてオーケストラも加わり、音楽の規模は次第に大きくなっていく。

展開部で劇的に盛り上がった後に、再現部は壮厳な音楽となり、最後にはピアノ独奏の力強いエネルギーに導かれ、歯切れよく終わる。

田中 広輝（大学院2年）

■I.アルベニス／ピアノ協奏曲 イ短調 作品78

スペインを代表する作曲家、イサーク・アルベニス(1860-1909)はピアノ奏者でもあった。幼い頃よりその才能を發揮し、9歳でマドリッド音楽院、その後はライプツィヒ音楽院、ブリュッセル王立音楽院にて学んでいる。伝記に様々な武勇伝が残されているが、アルベニス自身が書き留めた嘘の話も多々あることが判明されている。

オペラやオーケストラ作品も残しているが、ピアノ曲を数多く作曲し、最高傑作とされている《組曲:イベリア》は現代でも良く演奏されている。協奏曲はピアノ協奏曲のみ作曲しており、未完のものを除き2曲存在している。

本日演奏するのはそのうちの1曲、ピアノ協奏曲1番《幻想的協奏曲》である。3つの楽章から構成されており、通常の協奏曲形式に従って作曲されている。スペインらしい情景を思わせる部分もあるが、民族主義的な要素は少なく、ロマン派的協奏曲となっている。

第1楽章 Allegro ma non troppo

オーケストラのユニゾンで始まる冒頭は、劇的なメロディを奏で、ピアノへと受け渡される。中間部の Andante は、スペインらしい、叙情的でどこか淋しさを感じる音楽となっている。

第2楽章 Rêverie e Scherzo

緩やかに始まる2楽章は、ソリストとオーケストラ間の受け渡しが各所に点在する。Rêverie e Scherzo(夢想とスケルツォ)という副題の通り2つの部分からなり、リズミカルなスケルツォは2つのテーマが繰り返し何度も現れる。

第3楽章 Allegro

1楽章の力強い序奏部が再び姿を表し、より動きをもって進んでいく。途中に出てくるワルツ風のテーマは反復、展開されクライマックスへと向かう。

船越 のどか（大学院1年）

■Profile



森口 真司

(大分県立芸術文化短期大学音楽科教授・大分大学非常勤講師)
Shinji Moriguchi | 指揮

1964年大阪府生まれ。大阪府立北野高校時代よりオーケストラ活動を始め、京都大学文学部を経て1989年東京藝術大学音楽学部指揮科入学。1995年同大学大学院修了。指揮法を田中良和、遠藤雅古、フランシス・トラヴィス、若杉弘の各氏に師事する。大学院修了後すぐ「プラハの春」国際音楽コンクール指揮部門において第3位受賞(1位なし)、同時にプラハの春国際音楽祭に出演しプラハ放送交響楽団を指揮した。以降、東京フィルハーモニー交響楽団、紀尾井シンフォニエッタ、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、東京都交響楽団、札幌交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー管弦楽団、佼成ウィンドオーケストラ、大阪市音楽団など全国各地のオーケストラに客演する。

また岩城宏之氏に認められ、2003年から2年間オーケストラ・アンサンブル金沢の専属指揮者を務めた。在任中は定期公演、オーストリア・ベルギー公演、邦楽とのジョイントコンサート(石川県立音楽堂委嘱作品、多田栄一作曲「時の果てまで」初演)、テレビ金沢開局15周年記念演奏会等数多くの重要な演奏会で成功を収め、堀米ゆず子、リディア・バイチュ(ヴァイオリン)、ルドヴィート・カンタ(チェロ)、崔岩光(ソプラノ)、森山良子、加藤登紀子、山本邦山(尺八 人間国宝)など多彩なソリストと共に演じた。

オペラ指揮者としてこれまで30を超す作品を100回近く指揮し、大田区民オペラ・ベッリーニ「ノルマ」(「三菱UFJ信託音楽賞」受賞)ヴェルディ「シモン・ボッカネグラ」、モーツアルト劇場・オッフェンバック「シュフルーリ氏のサロンコンサート」「りんご娘」(日本初演)などが各方面から絶賛されるなど充実した活動が続いている。また東京二期会を中心に若杉弘、飯守泰次郎、佐藤功太郎、チョン・ミュンファン、クラウス・ペーター・フロール、エド・デ・ワールト、ペーター・コンヴィチュニー、宮本亜門など著名な指揮者・演出家のとも、ヤナーチェク「イエヌーファ」ヴァーグナー「ニュルンベルクのマイスター」、「さまよえるオランダ人」モーツアルト「皇帝ティートウスの慈悲」「魔笛」「フィガロの結婚」ヴェーバー「魔弾の射手」レハール「メリー・ウイドウ」リヒャルト・シュトラウス「サロメ」「アラベッラ」「ダナエの愛」(日本初演)「ダフネ」(日本初演)チャイコフスキイ「エフゲニー・オネーゲン」など数多くの公演に合唱指揮者として参加、その手腕は極めて高く評価されている。2002年から2009年まで東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンスも務めた。

東京藝術大学、くらしき作陽大学、二期会オペラ研修所講師を経て2008年大分県立芸術文化短期大学音楽科に着任する。現在は本拠地を九州に移し、九州交響楽団ベートーヴェン第九交響曲大分・延岡演奏会、愛媛県合唱連盟50周年記念公演「メサイア」、ひむかオペラ(延岡市)第1回公演「こうもり」、大分二期会旗揚げ公演「魔笛」、福岡県合唱連盟ベートーヴェン第九、ホルトホール大分開館記念演奏会、文化庁・大分県立芸術文化短期大学共催「ヘンゼルとグレーテル」「フィガロの結婚」、世界的バレエダンサー首藤康之氏演出・振付によるバレエ「ドン・キホーテ」「眠りの森の美女」、大分二期会「こうもり」、第33回国民文化祭マーラー「復活」など数々の重要な公演の指揮を任せられている。

現在、大分県立芸術文化短期大学音楽科教授、大分大学非常勤講師。

赤塚 博美

(洗足学園音楽大学・大学院電子オルガンコース統括教授)
Hiromi Akatsuka | 電子オルガン

学生時代よりエレクトーンコンクール国際大会などで、数々の音楽賞を受賞。オペラ伴奏者としての活動を始めてからは、ミラノスカラ座のG・ビサーニ氏に学び数々のコンサートで共演。ソリスト、現代曲の初演、オペラ伴奏などでエレクトーン演奏の第一人者として国内外を問わず活躍中。繊細な音楽のニュアンスまでをも表現できる数少ないエレクトーン演奏家として、多方面で活躍を期待されている。国際的フルート奏者の工藤重典氏と共に演じ、電子オルガンの可能性を引き出す演奏に絶賛され、繊細な音楽のニュアンスまでをも表現できる数少ないエレクトーン演奏家として、多方面で活躍を期待されている。編曲、演奏を担当したCD“Message for You”を水野佐知香氏、神谷百子氏と共にリリース、好評を博する。現在、洗足学園音楽大学・大学院電子オルガンコース統括教授。





樋口 歌織（大学院1年）Kaori Higuchi | ピアノ

東京都出身。国立音楽大学卒業。4歳よりピアノを学んでおり、現在、洗足学園音楽大学大学院1年器楽専攻ピアノコース在籍。第39回ピティナピアノコンペティション連弾上級部門全国大会入賞。大学4年次には、ピアノ専攻4年生による演奏会に選抜で出演。これまでにピアノを佐々木朋枝、米持隆之、白水芳枝、泉ひろ子、泉ゆりの各氏に師事。



田口 美優（大学院1年）Miyu Taguchi | ピアノ

広島県出身。洗足学園音楽大学ピアノ科、卒業。第一回洗足学園学内コンクール第三位。第77回福山音楽コンクール本選ファーストクラス受賞。第28回日本クラシック音楽コンクール全国大会入選。2018年、2019年度特別選抜演奏者認定。これまでにピアノを浅尾晶子、宮久恵、三谷知子の各氏に師事。現在ピアノを江崎昌子氏に師事。



田中 広輝（大学院2年）Hiroki Tanaka | ピアノ

洗足学園音楽大学音楽教育コース卒業。洗足学園音楽大学大学院器楽専攻ピアノコース2年在籍。

これまでにピアノを浅岡尚子、声楽を君島広昭、各氏に師事。現在ピアノを梶木良子、トランペットを班目加奈、指揮法を松元宏康、各氏に師事している。

第26回ヤングアーチストピアノコンクールファイナル ピアノデュオ部門にて入賞。SAKURA JAPAN MUSIC COMPETITION 2021 ピアノ部門一般の部 カテゴリーⅡ全国大会 第2位受賞（1位なし）。第6回Kピアノコンクール2台ピアノ部門にて、優秀賞（最高位）受賞。

八王子市吹奏楽部外部指導要員。



船越 のどか（大学院1年）Nodoka Funakoshi | ピアノ

都立総合芸術高等学校音楽科卒業。洗足学園音楽大学ピアノコース卒業。現在、同大学院に在学中。

大阪国際音楽コンクールにてアヴニール賞受賞、及び連弾部門にて第2位。日本香港国際音楽コンクール・プロフェッショナル部門にて第3位。

これまでに、ピアノを其田富子・井上祐子・川辺千香子・碓井俊樹・梶木良子の各氏に、ソルフェージュを上田真樹氏に師事するとともに、飛騨高山音楽祭他、様々な音楽セミナーにてマスタークラスを受講。

ソロだけでなく声楽や器楽の伴奏も行なっている。